

2020年ねずみ年（庚子）風水吉凶方位（2020年2月4日～2021年2月2日）

総評：本年は七赤が方位図の中央に来ます。「七赤破軍」と言い、動乱、軍事などを表します。商売に携わっている人は、常に万一の備えを怠らないようにしましょう。また、感染症が流行する恐れが高くなります。大きな交通事故が発生する可能性があります。また、女性が被害を受ける事案や、大きな火災事故が発生する可能性があります。本年は例年以上に漫才、歌手が活躍するでしょう。教師も良いでしょう。

金、不動産、石油、石炭などに関連する職業は良くなるでしょう。反面、運輸、電力、木材、船などの職業はあまり良くありません。ラッキーカラーは白と黄色です。

風水は一種の時間・空間・人が互いに感応して禍福吉凶が生じるという学問です。

七赤は退気なので、良いパワーをもっているでも発揮されません。現在は下元八運です。そこに七赤が来るため恋愛・浮気のゴシップ記事で賑やかになるでしょう。

本年注意すべき方位は「南」です。歳破・三サツともに南に来ます。二黒も南に来るため病気になるやすい年といえます。特に南に門扉が開く人は、健康に注意をして、この方位での動きを控えると良いでしょう。七赤と他の星の組合せは総じて良くありません。唯一、七赤と八白が重なると、八白は吉で強力なため諸々の凶は抑えられ、状況が良ければ財を生む可能性があります。それ以外の組合せは以下の通りすべて凶です。七赤と一白が重なると、娯楽にふけて、本業をおろそかになりやすい。七赤と二黒が重なると、嫁姑の仲が悪く家庭で争いごとが絶えない、あるいは夜遊びにふけやすい。七赤と三碧が重なると、財産が損なわれる。七赤と四緑が重なると、手術したり、手足をケガしたりしやすい。七赤と五黄が重なると、肺、口腔などの疾患になりやすく、原局が年・月との組合せが良くないと悪性を誘発しやすい。七赤と六白が重なると、盗難に遭いやすいため、事前に保険などをかけ、損失を減らすことを勧めます。七赤と七赤が重なると、その凶性は更に増幅される。七赤と九紫が重なると、「後天の火」と「先天の火」が交わるため、火災が発生しやすくなります。1月と10月は九紫が中央に来るため火災が起こりやすくなる。

陰暦・西暦の対応表	
陰暦	西暦(陽暦)
1月	2020年2月4日～3月4日
2月	2020年3月5日～4月3日
3月	2020年4月4日～5月4日
4月	2020年5月5日～6月4日
5月	2020年6月5日～7月6日
6月	2020年7月7日～8月6日
7月	2020年8月7日～9月6日
8月	2020年9月7日～10月7日
9月	2020年10月8日～11月6日
10月	2020年11月7日～12月6日
11月	2020年12月7日～2021年1月4日
12月	2021年1月5日～2021年2月2日

注：立春が一年の分岐点となります。

本表は二十四節気で陰暦月を計算しています。

本年の吉凶方位：
吉方位：西・北西・東北
凶方位：南・東・中央

東南	南	南西
六白／小吉[駟馬]	二黒／凶方[病符位][三サツ][歳破(午)]	四緑／小凶[文昌位]
<p>六白は財運の星ですが、衰退しているため、財運効果はのぞめません。引っ越しや旅行、出かける機会が多くなるでしょう。黄色系のマットなどでエネルギーを強化できます。この方位は一白生れの人に有利。三碧と四緑生れの人にはブルー系のものを置くといい。陰暦 1、10 月は交剣サツなので、争いごと、ケガや皮膚病に注意し黒酢を置く。引っ越しや、住宅の抽選を当てたいときはこの方位に銅馬を置きます。昇進、受験には文昌塔を置く。陰暦 12、9 月はパワーが最強になるため、財運、起業などには銅馬を置いてエネルギーを強化します。</p>	<p>二黒は主に疾病、婦人科病、消化器疾患などを表す。さらに風水的環境が悪く、月の運勢が良くなければ重大な病気にかかり、手術する可能性が高くなる。この方位は一白生れの人に不利である。回避するには以下の方法がある。一對の麒麟あるいは銅の葫蘆を置く。安忍水を置く。六帝古銭または圧サツ銭を置く。八卦銅銭を9個置く。銅風鈴をつるす。入り口を白色、銀色或いは金色にする。蝙蝠のものを吊るす。陰暦 2、8、11 月はとくに凶になるので、銅鐘あるいは龍鐘をつるし朝晩 6 回鳴らすと良い。陰暦 1、10 月はトラブルをさけるため赤色系のものを置くといい。金魚鉢、植物などは余りよくない。三サツ(坐・劫・歳)のため座らないほうが良い。避けるには、麒麟を三匹おく。逆に三サツに向うように座ると吉。また歳破なので改装や工事などは避ける。</p>	<p>四緑は文昌を司ります。試験、勉強運、昇進をもたらします。これをより強力にするには水晶文昌塔、銅文昌塔、緑玉文昌塔など、或いは丸い容器に水を入れて、この方位に置きます。四緑は生まれが九紫の人に最も有利ですが、二黒、五黄および八白の人には不利。陰暦 1 月、4 月、10 月は二黒と五黄が前後して来るため、災いや病気をさけるため風鈴をかざると良い。陰暦 3 月、12 月は三碧が来るため、トラブルと破財をさけるため赤色系のものを置いて化サツしましょう。</p>

東	中央(年星)本年の全体運	西
<p>五黄／凶方[五黄サツ]</p> <p>この方位は本年の大凶方位。五黄は大サツとよばれ、すべての災い、病気、早死に、滞り、失敗などはこの方位によってもたらされる。本年この方位では、改装や工事など、動きをもたらすことは行わないようにしましょう。動きがあると五黄のエネルギーが強化され、災いを引き起こす。この五黄をさけるには五層銅風鈴あるいは小さな羅盤を吊るす。また赤系統のものをさける。陰暦2月、5月、11月は方位の組み合わせが最も凶となるので、銅鐘あるいは龍鐘をつるし、毎日朝晩六回ずつ鳴らす。また家内安全には銅麒麟4匹、六帝古銭と銅風鈴1個を吊るすと良い。陰宅の坐山がこの方位なら改築は延期が良い。</p>	<p>七赤／凶方</p> <p>七赤は衰退のサツ。盗賊、色事、名声に溺れるなどを表す。一白と重なると横暴を助長する。この方位では大規模な工事、建築、神社仏閣、とがった建物や赤い物は禁忌です。いったん火災が発生すると収拾が付かなくなる恐れがあり。三碧と四緑生れの人には不利なので、青色系のものを置くと良い。陰暦3月、12月は兄弟、パートナー、友人と反目しやすくなる。避けるには梅花銭を机やカバンにしのばせると良い。陰暦12月、9月は火事に注意し、黄色系のものおく。ただし、その月が過ぎたらすぐに取り去る。陰暦6月は三碧が来るので、破財、トラブルを避けるため、赤色系のものや麒麟などを置くと良い。</p>	<p>九紫／吉方[喜慶]</p> <p>九紫は吉慶の星です。未来の生気を代表し、異性運、結婚、出産、昇進など喜ばしいことを表す。この方位のエネルギーを強化するには、この方角に紫水晶を置く。異性運には銅花瓶とローズ水晶。健康、出産には玉山を置く。家運をよくするには、一對の銅麒麟背銭。受験、昇進には文昌塔を置く。九紫は生れが八白、二黒、五黄の人に有利。七赤と六白の人には不利なので、黄色系のものを置くと良い。陰暦12月6月、9月とは病気をさけるために五層の風鈴をつるすと良い。陰暦8月は火災に注意し、黄色系のものを置くと良い。</p>
<p>東北</p>	<p>北</p>	<p>北西</p>
<p>一白／小吉[桃花位]</p>	<p>三碧／大凶 [是非位] [太歳(子)]</p>	<p>八白／吉方[財位]</p>
<p>一白は桃花(結婚、恋愛運)、旅行、移転、盗賊を表します。桃花エネルギーを高めるには、この方位に銅花瓶とローズ水晶などを置きます。桃花サツ(浮気など)を避けるには、銅ヒョウタン、銅鶏を置きます。家運を良くするには、麒麟を置き、思考力を高めるには、文昌塔を置きます。この方位は三碧と四緑生れの人に有利。二黒、五黄と八白生れの人には不利。陰暦12月9月はトラブル、泥棒に注意。赤色系のものと圧さつ銭を1つ置くと良い。陰暦1月、10月は病気の星が来るので、風鈴をつるし災いと病をさける。陰暦12月と9月は男性が女性に騙される恐れがあるので、六帝古銭を吊るし、災いをさける。</p>	<p>三碧方位はトラブル、訴訟、破財、盗難を表す。赤色系の布、カーペットを敷くか、赤い電灯をつけてこれらをさける。この方位には金魚鉢、扇風機を置くのは避けます。この方位は九紫生まれの人に対して有利です。二黒、五黄および八白生まれの人に対して良くありません。赤色系のものを置いてさける。陰暦12月、3月、9月は転んだり手足のケガ、病気に注意。五層風鈴を吊るすと良い。また、訴訟、空き巣、強奪などに注意し、銭剣などを吊るすと良い。陰暦7月は破財、トラブルのおそれがあります。麒麟や赤色系のものなどを置くと良い。太歳はこの方位に来るので、圧歳銭を置くと良い。</p>	<p>この方位は財運方位です。財運、事業拡張、起業、昇進、出産など良いことを表す。一白生れの人には不利なので、白色系のものを置くと良い。八白は陰暦1、10月にもっとも旺盛となる。パワーアップするには、赤色系のものを置く、あるいは赤い金魚を9匹飼う。横財力を高めるには、2つのヒキウに旺財物(黄水晶、水晶玉など)を加えて置いたり、龍亀、八白玉あるいは五帝古銭などを用いる。陰暦6、7月には子供のケガ、夫婦不和、腰の病に注意、赤色系のものを置くと良い。陰暦5月は五層風鈴を掛け、8月は六個の銅銭を吊るすとよい。通年で植物類を置くのは良くない。</p>